TAKASAGO

株主のみなさまへ

第91期 株主通信

平成28年4月1日～平成29年3月31日

Contents

トップメッセージ／連結財務ハイライト …… 1
高砂香料のビジネスフィールド …… 4
連結財務データ …… 5
企業価値向上に向けた取り組み …… 7
トピックス …… 8
会社情報 …… 9
株式情報／CSR …… 10
Takasago's History …… 裏表紙

高砂香料工業株式会社
証券コード：4914

トップメッセージ | Top Message |

ごあいさつ

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、「技術革新に基づく価値創造、挑戦できる人材の育成」を通じ、創業100周年を迎える2020年に向けて飛躍的成長を遂げるための基盤構築、また課題解決のための3年間と位置付けた、中期経営計画『TAKASAGO GLOBAL PLAN (GP-3)』(2015-2017年度)に取り組んでおります。

本年、中期経営計画の最終年度を迎えるにあたり、次期3ヵ年計画に良い形で繋げられますよう、引き続き全社を挙げてこれら課題解決に鋭意取り組んでまいる所存です。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長　桝村　聡

表紙について

表紙に写るスズランは、フランス語でミュゲ(Muguet)といい、バラとジャスミンに並び香料の世界で三大フローラルと呼ばれ、さわやかで清楚な香りが特徴です。当社アロマイングリディエンツ部門では、再生可能原料と独自の技術を組み合わせ製造した「BIOMUGUET™(バイオミュゲ)」という環境に優しく安全な香料素材を販売しております。

—— 当期の事業環境はいかがでしたか?

世界経済は、アメリカや欧州では緩やかな景気回復がみられましたが、中国をはじめとする新興国の経済成長の鈍化、またアメリカ新政権の不安定な状況などにより、先行き不透明な状況となっております。日本経済は、緩やかな景気の改善がみられますが、個人消費の回復は弱く、また株式市場や為替相場についても急激な変動に留意すべき状況です。

香料市場は、2016年に国内外ともに前年より約5%の増加がみられるなか、成熟市場での事業展開については、競合他社との競争が厳しくなっております。

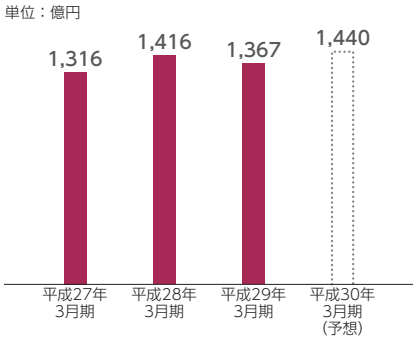
—— 当期業績はいかがでしたか?

2017年3月期の売上高は、前期比3.5%減の1,367億円となりました。減収の要因は、主に円高の影響によるものでしたが、為替の影響を除きますと2.8%の増収となりました。利益面では、アメリカ子会社の好調が寄

連結財務ハイライト | Consolidated Financial Highlights |

売上高

単位：億円



与したことにより、営業利益は前期比7.9%増の71億円となりました。売上と同じく為替の影響を除きますと、前期比14.9%の増益となりました。また、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比29.6%増の63億円となりました。

なお、2017年3月期の配当金は、安定配当を基本としつつ直近の業績水準をも勘案するとした配当方針に沿い、前期より5円増額し、年間50円とさせていただきました。

―― 中期経営計画(GP-3)の進捗はいかがですか?

当社は、中期経営計画『TAKASAGO GLOBAL PLAN (GP-3)』(2015-2017年度)を推進しており、「事業基盤の再強化」、「人材開発」、「技術革新」、「顧客からの信頼」、「利益体質改善」を基本方針としております。

業績面は、GP-3の2017年3月期の売上目標1,500億円が為替の影響もあり、未達となりました。その一方営業利益は、44億円という目標を大きく超え、前述した通りアメリカ子会社の好調が寄与し、1年前倒しで達成することができました。しかし、数字では見えない解決すべき課題は残されております。課題と真摯に向き合い、一つ一つ解決に努めてまいります。

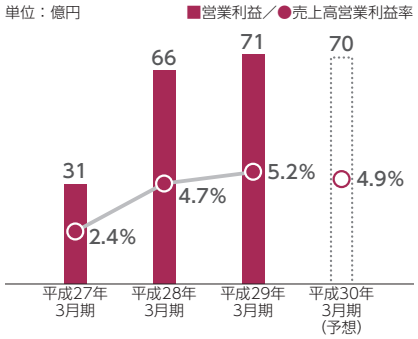
地域別の投資の取り組みについては、日本では、2015年に広島県三原市に竣工したフレーバー工場が順調に稼働しております。また同年に磐田工場(静岡県)にて、ファインケミカル事業がフロー連続技術装置を導入し、販売拡大に向けた開発投資を進めております。米州では、天然香料素材の拡充をはかるため、2016年にアメリカノースカロライナ州にて、バイオプロセスを用いた独自の製造ノウハウを持つCIT社を買収しております。欧州では、旺盛なフレーバー需要に加え、将来の中東やアフリカでの市場拡大を見据え、本年3月に拡張工事を終えたドイツ工場が順調に稼働しております。こちらは、ナチュラル素材の開発、製造への寄与も期待できます。アジアでは、本年3月にインドの新工場が稼働し始め、成長市場において、フレグランス、フレーバー両事業の顧客への供給力強化が期待できます。また同じく成長市場のインドネシアにて、2015年に工場用地を確保し、現在は工場稼働に向けて準備を進めております。

―― 現在注力している分野はどのようなものですか?

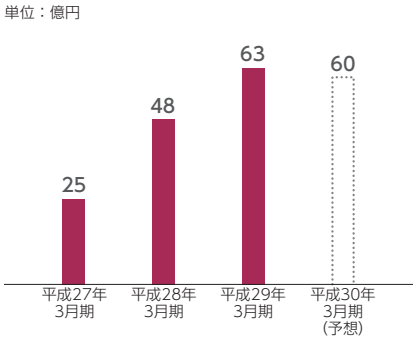
近年、安全・安心な品質と環境に配慮した製品を安定的に供給する持続可能(サステナブル)な社会の実現が謳われるなか、香料業界でも、欧米をはじめ世界各国で天然由来の香料原料や再生可能(リニューアブル)な原料の需要が高まっております。当社においても、安定した天然資源の確保、また微生物や酵母などを利用した香料原料開発に積極的に取り組んでおります。

フレーバー事業では、2013年にマダガスカル最大

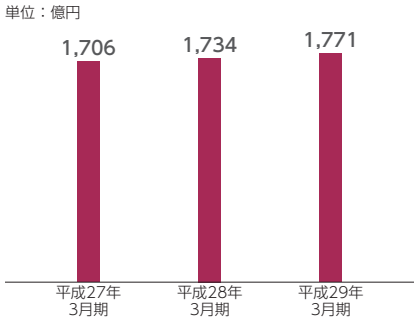
営業利益／売上高営業利益率



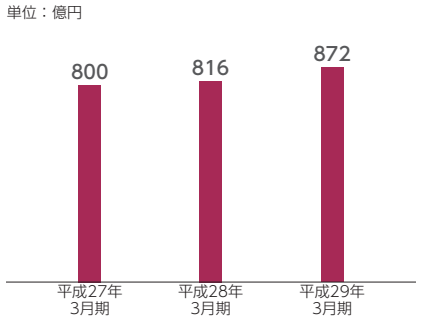
親会社株主に帰属する当期純利益



総資産



純資産



のバニラ農園を保有するラマナンドライベ社と共同出資により、「高砂マダガスカル」を設立し、天然資源のバニラの確保と安定供給に力を入れてきました。そして現在では、天然香料原料の中でも重要な原料の一つを確保できたと考えております。

フレグランス事業では、顧客の再生可能な原料需要への対応が求められております。そこで同事業と緊密なアロマイングリディエンツ事業において、再生可能原料と発酵の力を組み合わせた香料素材を開発することにより、従来のフレグランス香料と差別化を図った商品を提供し、また持続可能な社会への貢献ができるよう事業を進めております。

ファインケミカル事業では、モノ作りを効率化した環境調和型ビジネスを推進するための技術革新に取り組んでおります。前述したフロー連続技術装置を導入したことにより、生産の効率向上、コストメリット、安全で環境負荷の低減を実現いたしました。同装置を使用し付加価値向上に努め、製造した医薬中間体を製薬会社に提供しております。

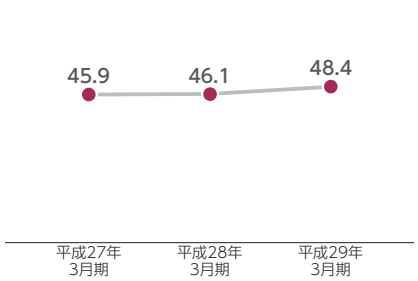
―― 今後の目標や方針を聞かせてください。

本年GP-3の最終年度を迎えるにあたり、基本方針であります「人材開発」、「技術革新」、「顧客からの信頼」、「利益体質改善」のそれぞれの施策を引き続き着実に遂行していくことで、次期3カ年計画に向けた事業基盤の再強化を図ってまいります。具体的な数値目標は、次期3カ年計画に盛り込んでいきます。今後も確固たる技術を確立し、その技術をもとに創造された商品をお客様へ提供していくことを通して、人々が健康で心豊かに生活できるように事業活動を推進してまいります。そして創業100周年の2020年には、信頼される商品を供給し続けることにより、世界でトップクラスの香料会社になることを目指してまいります。

連結財務ハイライト | Consolidated Financial Highlights |

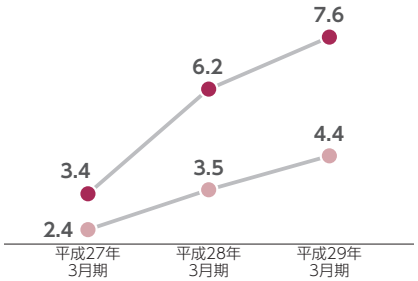
自己資本比率

単位：%



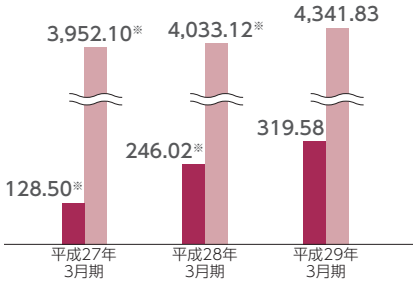
ROE(自己資本当期純利益率)／ROA(総資産経常利益率)

単位：%　●ROE ／●ROA



EPS(1株当たり当期純利益)／BPS(1株当たり純資産)

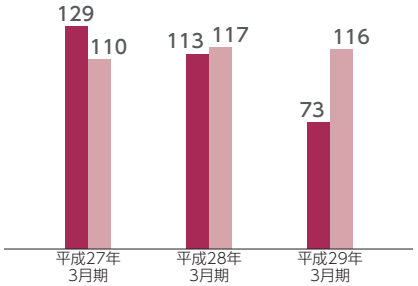
単位：円　■EPS ／■BPS



※ 平成27年10月1日付で普通株式5株を1株とする株式併合を実施しております。平成27年3月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益および1株当たり純資産を算定しております。

設備投資額／研究開発費

単位：億円　■設備投資額／■研究開発費



様々なシーンで社会に価値を提供し続けます。

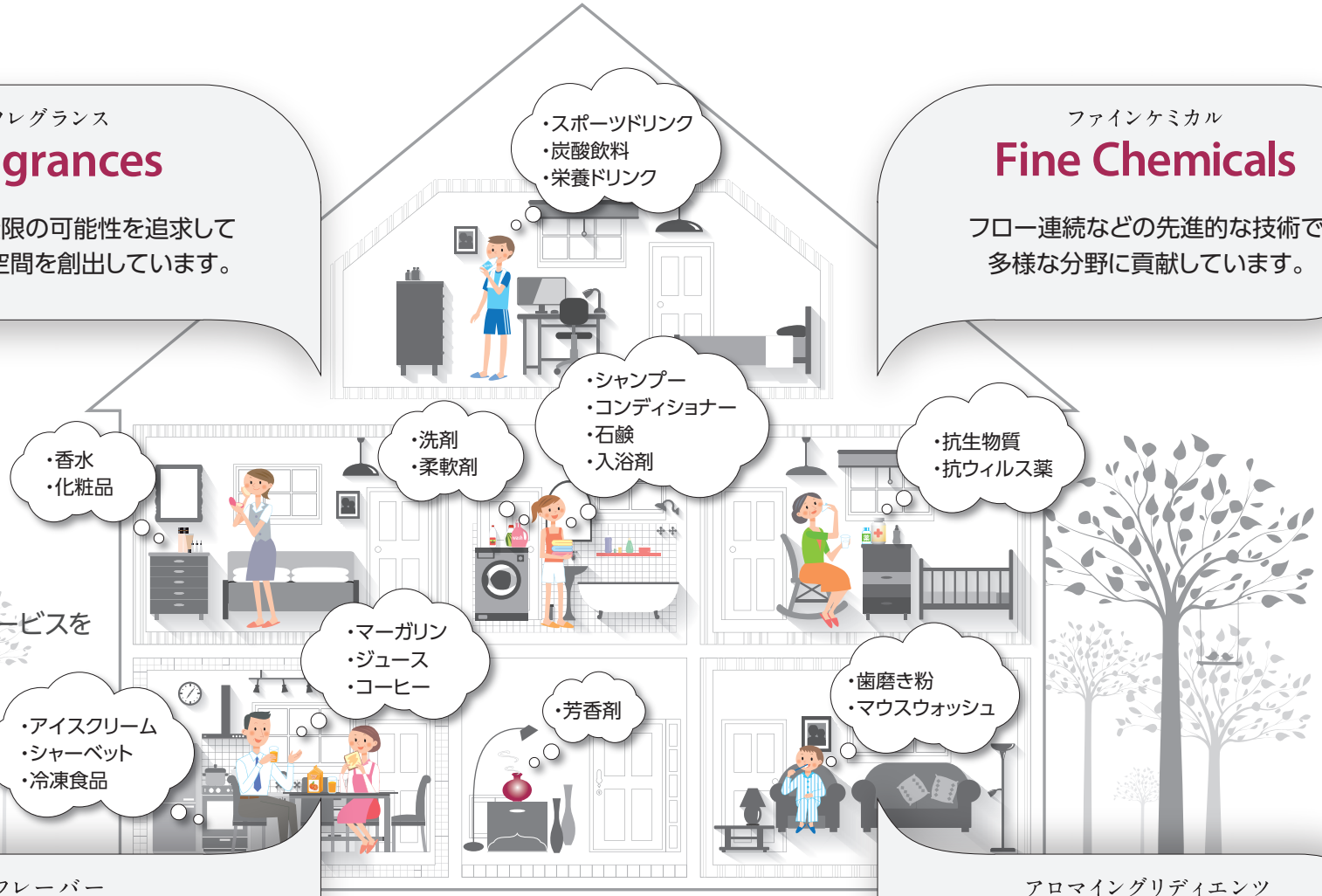
当社の事業は、

- フレーバー
- フレグランス
- アロマイングリディエンツ
- ファインケミカル

で構成され、
グループ経営資源を各地域で
有効活用することで、
高品質かつ信頼いただける製品・サービスを
世界中のお客様にお届けしています。

フレグランス
Fragrances
香りが持つ無限の可能性を追求して
豊かな生活空間を創出しています。

ファインケミカル
Fine Chemicals
フロー連続などの先進的な技術で
多様な分野に貢献しています。



フレーバー
Flavors
食のトータルプランナーとして
新しい素材やフレーバーを
提供しています。

アロマイングリディエンツ
Aroma Ingredients
ユニークなアロマ素材で、高品質のフレーバー、
フレグランスのクリエーションに
貢献しています。

連結財務データ | FINANCIAL INFORMATION |

経営成績

単位：億円

科目	平成25年3月期（第87期）	平成26年3月期（第88期）	平成27年3月期（第89期）	平成28年3月期（第90期）	平成29年3月期（第91期）
売上高	1,189	1,310	1,316	1,416	1,367
売上原価	826	914	910	963	925
売上総利益	362	395	406	452	442
販売費及び一般管理費	300	341	374	386	370
営業利益	62	54	31	66	71
経常利益	74	59	38	60	77
親会社株主に帰属する当期純利益	46	30	25	48	63

Point 売上高 日本ではファインケミカル事業が伸長、米州も前期に引き続き好調に推移しましたが、為替の影響により、前期比49億円の減収となりました。

Point 営業利益 アメリカ子会社等の好調により、前期比5億円の増益となりました。

財政状態

単位：億円

科目	平成25年3月期（第87期）	平成26年3月期（第88期）	平成27年3月期（第89期）	平成28年3月期（第90期）	平成29年3月期（第91期）
流動資産	743	825	886	868	880
固定資産	574	668	820	865	891
流動負債	466	497	564	508	480
固定負債	238	284	341	409	418
純資産	612	711	800	816	872
（うち株主資本）	(605)	(627)	(643)	(685)	(736)
総資産	1,317	1,493	1,706	1,734	1,771

詳細な財務データは当社IRサイトをご覧ください。
http://www.takasago.com/ja/ir

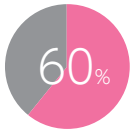
高砂香料 IR　検索

事業別概況

フレーバー事業

売上高821億円

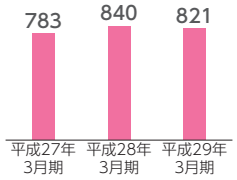
前期比2.3%減 ⬇



事業内容

飲料やデザート、菓子、乳製品、調理食品などに、優れた香りと風味を付与するフレーバーを提供し、さらに果汁やコーヒー、お茶といった食品原料も提供しています。

売上高　単位：億円

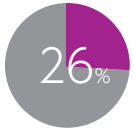


● アメリカ子会社における飲料向け香料の伸長等により好調でしたが、為替の影響により減収となりました。

フレグランス事業

売上高359億円

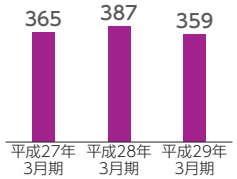
前期比7.3%減 ⬇



事業内容

香水や化粧品やシャンプー、洗剤、芳香剤、入浴剤といった商品に使用される香りを、残香性や拡散性、安定性にも優れたかたちでクリエーションし、提供しています。

売上高　単位：億円

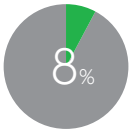


● 中国子会社等が低調に推移したことにより減収となりました。

アロマイングリディエンツ事業

売上高105億円

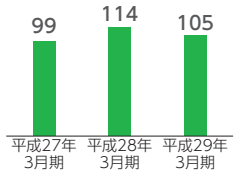
前期比8.0%減 ⬇



事業内容

光学活性で革新的かつユニークな香りの素材を開発し、高品質のフレーバー、フレグランスのクリエーションに用いています。

売上高 単位：億円

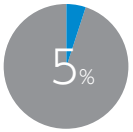


● 主力のメントールが堅調に推移いたしましたが、海外輸出時の為替の影響により、減収となりました。

ファインケミカル事業

売上高67億円

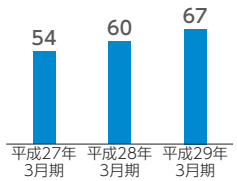
前期比12.4%増 ⬆



事業内容

独創的な触媒・不斉合成技術を核に、フロー連続技術による医薬中間体、電子写真感光体などの機能性素材を提供しています。

売上高 単位：億円



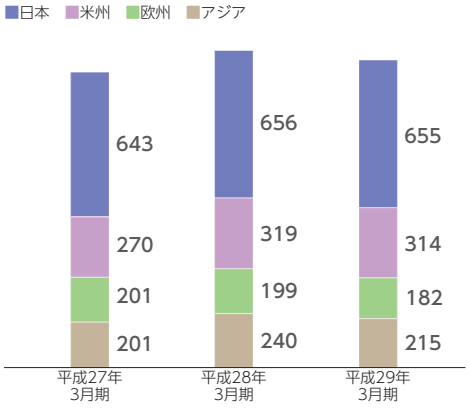
● 前期に引き続き、フロー連続技術による医薬中間体ビジネスが海外製薬会社向けに伸長し、増収となりました。

※上記の他に、その他不動産事業の売上高14億円があります。

地域別概況

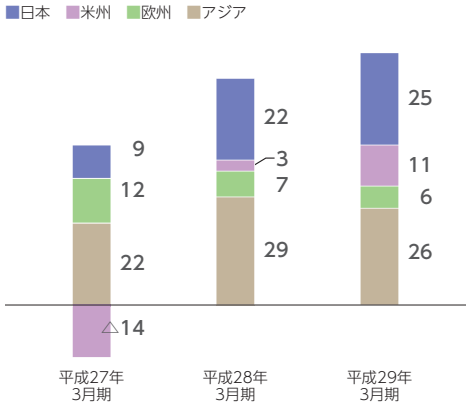
地域別売上高

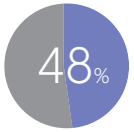
単位：億円



地域別営業利益

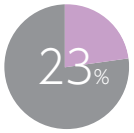
単位：億円





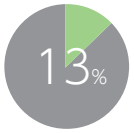
■日　本

売上は、アロマイングリディエンツは為替の影響により減収となりましたが、フレーバーは転売品などの好調により増収、全体では前期並となりました。営業利益は、飲料用フレーバーなどが牽引し、増益となりました。



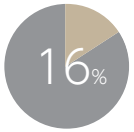
■米　州

売上は、全事業において堅調に推移いたしましたが、為替の影響により減収となりました。営業利益は、飲料用フレーバーや、フレグランスにおける大手顧客向け香料の伸長により、大幅な増益となりました。



■欧　州

売上は、フレーバーは引き続き堅調、フレグランスでも香水用香料が伸長したものの、為替の影響により減収となりました。営業利益は、フレグランスの体制強化のための費用を計上したことなどにより減益となりました。



■アジア

売上は、東南アジアでは堅調でしたが、中国における不調および為替の影響により、全体では減収となりました。営業利益は、東南アジアでは原材料価格の低下などの影響もあり増益となりましたが、中国の減収の影響により、全体では減益となりました。

management interview

マネジメントインタビュー　社外取締役　野依良治

野依良治 ● プロフィール

1963年 3月	京都大学大学院工業化学専攻修士課程修了
1972年 8月	名古屋大学教授
2001年 6月	当社取締役
2001年12月	ノーベル化学賞受賞
2003年10月	独立行政法人理化学研究所理事長
2015年 6月	国立研究開発法人科学技術振興機構研究開発戦略センター長

経営理念を共有し、グローバル市場でもトップに

2020年には創業100周年を迎える高砂香料工業。欧州に学んだ青年の志は、日本最大の香料会社として結実し、グローバル市場においても確固たる地位を築きつつあります。実際に近年の海外展開は目覚しく、売上高はすでに国内を上回る状況です。社外取締役は、ある程度の距離をもって客観的な第三者の視点から経営を監督し、助言する役割を担います。国内外の多彩な経歴を持つ高砂香料工業の取締役が、各々経営理念を共有し、熱く議論を行う姿は頼もしくもあり、私も研究者としての知見をもとに微力ながら助言を行っています。これからの時代に成長を続ける企業は、広く世界から投資を呼び込むことが必須です。若手社員の新鮮な志を汲み取り、様々なステークホルダーの共感と信頼を得ながら、新しい企業像を確立していくこと、そこに注力しています。

創業100周年、さらなる成長に向けてすべきこと

モノづくり産業は、ある一定期間ごとに、革新技術を生み続けなければなりません。私が当社に関わりをもった1980年代初期には、世界に先駆ける不斉合成技術を世に送り出しました。化学合成による新製品の開発により、「Takasago」のブランドは世界へと羽ばたきました。他の追随を許さない新たな技術の創出。それを今後は若い世代が担い、あらゆる分野から知識を統合し、創造的な商品開発を成し遂げてほしいと思います。「知識や技術の独創」はもちろん大切ですが、「価値の共創」の時代となり、そのためのネットワークづくりが今後は強く求められるでしょう。時代の流れは急激に変わりつつあります。さらなる発展のために「モノづくり」とともに「コトづくり」への変革も目指してほしいと思います。そのためには近未来の社会の姿を予見し、あるべき会社のかたちを設計しなければなりません。我々を取り巻く環境はどのように変わるのでしょうか。わが国はGDPの2倍以上の公的負債、少子高齢化、エネルギー資源の枯渇に喘いでいますが、一方、世界は地球温暖化問題や、一昨年国連総会が定めた「持続可能な開発のための2030アジェンダ(Sustainable Development Goals (SDGs)」などへの対応に大きく動いています。若い世代の投資家たちは、財務状況だけでなく、環境と基本的人権の維持に責任ある対応をしているか否かで投資先を決めています。古い経営感覚では、人もモノも調達できなくなるでしょう。幸いにも高砂香料工業は、香料供給といった供給者視点でなく、食品や香粧品香料、医薬中間体など素材の提供を通じ、豊かな生活を支える国際的な企業へと変容しつつあります。

若者を応援し、ダイバーシティの現状をさらに前へ

「価値の共創」にむけたオープンイノベーションの流れは不可避です。最も大切なことは、国籍、性別、年齢の相違を超えた多様な人材の育成、確保になります。明確な社会的課題の解決は、同質の人の集団(グループ)では困難で、異なる知能、技能者からなる組織(チーム)によってのみ効果的に行われます。若者は洋の東西を問わず、あえて困難に挑む性向をもちます。とくに女性の価値観は大切で、幸いにも、高砂香料工業は女性社員にとって非常に働き易い場を提供していると聞いています。今後は、外国籍の社員にとっても魅力的な職場であって欲しいと願います。若い世代は、困難の道を拓いた先人の努力に感謝しつつ、気概をもって「高砂香料工業2.0」を実現しなければなりません。明日は今日までの延長線上にはありません。私は、心ある若者たちにはぜひ真剣に、あるべき将来を設計するように、と進言し続けています。株主のみなさまには、ぜひ若い彼らの思いを汲み取り、応援をお願いしたく存じます。

diversity

ダイバーシティ推進活動

当社では、多様な人材が特性や個性を活かし、1人1人がいきいきと働くことができる職場環境づくりに取り組んでおります。その取り組みの一つが、従業員の子育て支援制度の充実です。

育児に関連した支援制度実績 一例（2016年度）

- 育児休業取得率：女性100%　男性10%（全国平均※ 女性81.5%、男性2.7%）
  ※従業員5人以上の5,850事業所を対象とした2015年度の厚生労働省の統計より
- 育児休業取得者退職率：男女ともに0%
- 育児時間制度利用者数：女性55%
  ※この制度は、小学校3年生終了時まで1日1時間取得可能とする当社独自の支援制度です。

社員の声

研究開発本部
フレーバー研究所
渡邉　暁彦

「子供が産まれたら2人で育てよう」。同じ研究所に勤務する妻との約束。娘が10カ月の頃に妻と交代し、私が育児休暇を6カ月間取得しました。

家事全般に自信はありましたが、子守をしながらとなると思い通りにはいかず、朝昼晩の離乳食を食べさせることがどんなに大変なことか、改めて親に感謝する機会となりました。天気が良い日は娘と公園や海に散歩に出かけ、季節の移り変わりと娘の成長をゆっくりと感じながら過ごしました。育休も残りわずかのある日、伝い歩きしか出来なかった娘が突然一人で歩いて私に向かってきました。あの時の娘の笑顔は一生忘れない私の宝物です。

元の職場に復帰した現在は、妻と共に育児と仕事の両立に取り組むことが出来ていて、高砂香料における働きやすさを実感しています。このような機会を与えてくれた家族と職場の上司、同僚の皆さんに感謝しています。

インド新工場が本格稼働

2017年3月、インドのチェンナイ市にTakasago International (India) Pvt. Ltd.の新工場を設立し、開所式を迎えました。10億人を超えるインドにおける食品や香粧品など消費者市場における供給および顧客支援を強化してまいります。

今までは当社シンガポール子会社Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.の支援も受けながら、インド仮工場を中心に周辺地域向けの製品の製造・販売を行っておりました。

新工場に製造・販売・開発を含むすべての機能を移管したことにより、地域に密着したアプローチやリードタイム・運搬コストの削減が実現でき、今後当社グループを牽引する重要な存在になっていくと思われます。

フランス共和国より「国家功労勲章」を受章

2017年1月、フランス大使館公邸での叙勲式において、ティエリー・ダナ駐日大使より、社長の桝村が国家功労勲章の「シュヴァリエ」を受章いたしました。

当社は1960年に駐在所を開設、その後子会社Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.を設立し、現在では販売拠点・研究所・工場を有し、ヨーロッパのみならず中東・アフリカも含めて事業拡大を進めております。この叙勲は、同国の経済発展ならびに地域社会への貢献に対する功労が評価されたものです。

今後も更なる業容の拡大を推進し、各国の地域社会に貢献できるよう努めてまいります。

三原工場にて、地域住民向け工場見学

私たちは「地球環境に配慮し、地域社会を大切にした、世界の人々から共感を得られる企業を目指す」という経営基本方針に則り、事業企業活動を行っております。その一環として、2016年12月、三原工場にて、地域住民向けの工場見学会を開催いたしました。100名を超える参加者を対象に、会社・工場の概要説明、工場見学、また香料を使った体験活動を実施いたしました。

見学後のアンケートの結果、参加者の約9割の方が見学会に満足し、また参加したいとの回答をいただきました。

このような地域活動を通じ、社会と積極的に関わり、企業理解を推進し、信頼されるよう日々邁進しております。

会社情報 (平成29年3月31日現在) | CORPORATE DATA |

グローバルネットワーク

ヨーロッパ・アフリカ

フランス	Takasago Europe Perfumery Laboratory S.A.R.L.
ドイツ	Takasago Europe G.m.b.H.
	Takasago International (Deutschland) G.m.b.H.
スペイン	Takasago International Chemicals (Europe), S.A.
	Takasago International (España) S.L.
イギリス	Takasago (U.K.) Ltd.
イタリア	Takasago International (Italia) S.R.L.
トルコ	Takasago International Turkey Esans Ve Aroma San. TIC. A.S.
モロッコ	Societe Cananga S.A.R.L.
マダガスカル	Takasago Madagascar S.A.
南アフリカ	Takasago International Corporation South Africa (Pty) Ltd.

アメリカ大陸

アメリカ	Takasago International Corporation. (U.S.A.)
	Centre Ingredient Technology, Inc.
メキシコ	Takasago De Mexico S.A. De C.V.
ブラジル	Takasago Fragrâncias E Aromas Ltda.

アジア・パシフィック

中国	上海高砂香料有限公司
	上海高砂・鑑臣香料有限公司
	厦門華日食品有限公司
	高砂香料 (広州) 有限公司
韓国	Takasago International Corporation (Korea)
シンガポール	Takasago International (Singapore) Pte. Ltd.
インド	Takasago International (India) Pvt. Ltd.
フィリピン	Takasago International (Philippines), Inc.
タイ	Takasago Import and Export (Thailand) Ltd.
インドネシア	PT. Takasago International Indonesia
	PT. Takasago Indonesia

国内事業所一覧

本　　社	平塚研究所
大阪支店	平塚工場
名古屋支店	磐田工場
福岡支店	鹿島工場
	三原工場

国内子会社

株式会社高砂ケミカル
高砂スパイス株式会社
高砂フードプロダクツ株式会社
高砂珈琲株式会社
株式会社高砂インターナショナルコーポレーション
株式会社高砂アロマス
高栄産業株式会社
高和産業株式会社
有限会社高砂保険サービス
南海果工株式会社
高砂香料西日本工場株式会社

会社概要

会社名	高砂香料工業株式会社 (TAKASAGO INTERNATIONAL CORPORATION)
本　　社	〒144-8721 東京都大田区蒲田5丁目37番1号 ニッセイアロマスクエア 17F
TEL	03-5744-0511
国内事業所	大阪支店、名古屋支店、福岡支店、 平塚研究所、平塚工場、磐田工場、鹿島工場、 三原工場
海外事業所	世界26の国と地域に事業拠点がございます
創　　業	1920年(大正9年)2月9日
資本金	92億4,853万8,972円
従業員数	1,007名 (高砂香料グループ 3,339名)

取締役および監査役 (平成29年6月28日現在)

代表取締役社長	桝村　聡
取締役	野依良治
取締役	笠松弘典
取締役	松尾孝司
取締役	藤原久也
取締役	アルフレド・エー・アスンシオン
取締役	山形達哉
取締役	染川健一
取締役	谷中史弘
取締役	松田浩明
常勤監査役	大西一清
常勤監査役	近藤　仁
監査役	中江康男

(注) 1. 取締役野依良治氏、松田浩明氏は社外取締役であります。
2. 監査役大西一清氏、中江康男氏は社外監査役であります。

執行役員 (平成29年6月28日現在)

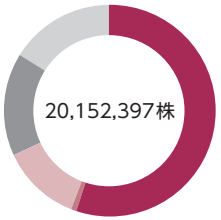
社長執行役員	桝村　聡
常務執行役員	笠松弘典
常務執行役員	アルフレド・エー・アスンシオン
常務執行役員	松尾孝司
常務執行役員	藤原久也
常務執行役員	山形達哉
常務執行役員	染川健一
常務執行役員	谷中史弘
執行役員	佐用　昇
執行役員	水野直樹
執行役員	磯野裕一
執行役員	川端茂樹

株式の状況

発行可能株式総数	60,000,000 株
発行済株式の総数	20,152,397 株
株主数	5,108 名

株式の分布状況

所有者別構成比



金融機関	55.1%
金融商品取引業者	0.9%
その他法人	12.1%
外国法人等	15.8%
個人その他	16.1%

（注）個人その他には、自己株式としての保有分（2.1%）が含まれております。

大株主

株主名	所有株式数（千株）	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	2,809	14.2%
日本生命保険相互会社	1,468	7.4%
株式会社三菱東京 UFJ 銀行	947	4.8%
MLI FOR CLIENT GENERAL OMNI NON COLLATERAL NON TREATY-PB	900	4.6%
共栄火災海上保険株式会社	750	3.8%
中江産業株式会社	720	3.7%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	694	3.5%
株式会社みずほ銀行	604	3.1%
株式会社紀陽銀行	471	2.4%
高砂香料従業員持株会	420	2.1%

（注）1. 持株比率は発行済株式の総数から自己株式数(415,281 株) を控除して計算しております。
2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）、日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）の所有株式数には信託業務に係る株式数が含まれております。

株主メモ

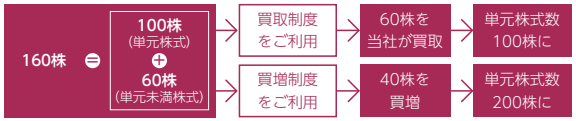
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会　3月31日 期末配当金　3月31日 中間配当金　9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	同
（同連絡先）	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所第1部（化学）
証券コード	4914
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う
公告掲載URL	http://www.takasago.com/ja/ir/e_announce.html ※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

株式に関するお手続きについて

● 単元未満株式（100 株未満の株式）買取・買増制度について

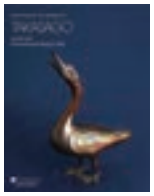
当社株式の証券市場での取引は100株単位（1単元）となっておりますため、単元未満株式（100株未満）を市場で売買することはできません。このため、当社では「単元未満株式買取・買増制度」をご用意しております。単元未満株式をご所有の株主さまは、ぜひ買取・買増制度のご利用についてご検討くださいますようお願い申し上げます。

買取・買増制度の例（160株ご所有の場合）



「環境・衛生・安全」への取り組み

当社グループは、持続的な（サステナブル）社会の実現に向けて、環境保全に対しグローバルに取り組んでおります。詳細については、当社ホームページ「サステナビリティ」をご参照ください。



高砂香料工業株式会社
『社会・環境報告書 2016』

URL http://www.takasago.com/ja/sustainability/index.html

TAKASAGO COLLECTION®

当社は香り文化の普及を願い、香りの歴史と文化に関する資料や美術品の収集と保存に努めてまいりました。「高砂コレクション®」は、日本の香道具、香炉、香合などから、古代エジプト、ギリシャ、ローマ時代の香油瓶、イスラム世界のバラ水撒水瓶、18～20世紀のヨーロッパの香水瓶など約1,000点に及びます。これらの一部を本社ギャラリーで展示しております。

場所：高砂香料工業・17階ロビー内
開室：10:00～17:00（入室は16:30まで）
休館：土日祝日、年末年始、臨時休館日
料金：無料
交通：JR蒲田駅・徒歩3分

慎風香炉
帖佐美行（ちょうさよしゆき）
1987年　高11cm／径10cm

銀製の火屋に草花文を透かしに彫金して香煙の穴としている。四足の香炉は銅板で作られ、可愛らしい耳が付いている。

帖佐美行（1915～2002年）は彫金家。小林照雲、海野清に師事。1942年に文展初入選以降、日展、および自ら中心となって結成した日本新工芸家連盟を中心に精力的な創作活動を行う。1993年文化勲章受章。

Takasago's History 第3回

敗戦まで ●1930⇒1945

昭和に入って生産を拡大するなか台湾に進出、工場を建て本社を移す。戦中は多角化で生き残りを図るも空襲と敗戦で工場を殆ど失う。

当社は創業時より樟脳を主とする台湾の香料資源に注目し、それらを原料として香料の国産化を進める意図を持っていました。樟脳はクスノキから採れる成分で、香料や医薬品、防虫剤として使われる他、セルロイドの原料として当時世界的な需要がありました。主たる産地が日本と台湾であったことから、政府は樟脳を専売制とし、輸出の重要品目として保護していました。高砂としては樟脳の製造時に出る樟脳副産油とよばれる成分を原料としてさまざまな合成単品香料を作りたいのですが、台湾における樟脳の利権は長いこと神戸の鈴木商店が握っていたため、高砂のような小さな会社のつけ入る隙はありませんでした。

ところが、昭和2年4月に金融恐慌のあおりを受けて鈴木商店が倒産すると、それまでに高砂の人々がつくりあげてきた台湾総督府専売局との人脈が生きて活路が開かれます。まず、翌昭和3年には樟脳副産油の一部である赤油の払下げが始まり、そこからサフロールを製造して我が国最初の香料輸出に漕ぎつけ、さらにバニラ様香気を持つ重要な合成香料バニリンの製造にも成功します。そして、昭和5年には専売局からの樟脳副産油払下げ契約が結ばれるに至るのです。

樟脳副産油からバニリンを製造するオゾン化法は商工省から数度にわたって奨励金が出されるなど当時最新の技術であり、払下げを受けるにあたって高砂の技術力が高く評価されたものと思われます。このように原料供給が安定的に確保された上は、生産力増強のため台湾に工場を建設することは、専売局の勧めはあったにせよ、自然な流れでした。昭和8年頃から準備を始め、昭和10年5月にはついに台北工場が開場します。

その間東京工場も拡張し、昭和11年には今日高砂の主力たるフレーバー香料の原点とも言うべきエッセンス香料の製造販売も始まり、事業は著しく伸展して行きます。特に昭和7年以降は毎年10パーセント以上も売上が増え、昭和5年と15年とをくらべてみると、わずか10年の間に売上高がおよそ13倍に達しました。そうして会社が活況を呈するなか昭和13年6月に、創業以来会社を引っ張って来た甲斐荘楠香社長が亡くなります。そのわずか一ヶ月後に、高砂は本社を台北に移します。専売局との関係強化を図るとともに、樟脳副産油を主原料とした香料工業の会社としてさらなる発展を期してのことでした。

甲斐荘楠香亡き後高砂を牽引したのは専務として会社を指揮した堀内利器です。技術陣の先頭に立って新たな技術の導入を進めるとともに、昭和12年に始まる日中戦争のもと「贅沢品」として生産拡大が難しくなってきた香料に代わって、選鉱剤や軍需用の化成品の製造を押し進めました。社名に「香料」とついていることで贅沢品を製造する会社とみなされ、統制経済のもとでは原料供給もおぼつかないことから、「高砂化学工業」と社名を変えたのは昭和14年7月のことです。

昭和16年3月には軍需用の燃料などの製造を目的とした別会社「台湾有機合成」を立ち上げ、製造の難しくなった香料に代わる品目の製造による生き残りを図りますが、その年の末に始まった太平洋戦争により企業活動はますます困難になって行きます。堀内は昭和17年5月に、政府の要請により南方視察団の一員として派遣されますが、乗った船がアメリカの潜水艦の魚雷により撃沈され、堀内は犠牲となってしまうのです。相次いで指導者を失った高砂は、それでも戦争中軍需品の生産工場として生き延びますが、昭和20年の4月に東京工場が空襲により大きな打撃を受けた上、敗戦を迎えて台湾にあった工場も接収されてしまいます。戦争の終結とともに主力工場を失うことになったのです。

次号では戦争中の統制経済の下での企業活動の困難さについて掘り下げてみたいと思います。

【以下次号】

台北工場全景

TAKASAGO
高砂香料工業株式会社
〒144-8721　東京都大田区蒲田5丁目37番1号
ニッセイアロマスクエア 17F
TEL. (03) 5744-0511　FAX. (03) 5744-0512
http://www.takasago.com

この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
UD FONT
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915
VEGETABLE OIL INK